

01 自治行政局

行政課

北野 貴之

これからの地方自治と向き合う仕事

自治行政局

自治財政局

自治税務局

消防庁



PROFILE

Takayuki Kitano

平成21年4月	総務省採用
	消防・救急課
平成22年4月	自治財政局調整課
平成23年4月	和歌山県総務部総務管理局市町村課
平成25年4月	現職

■ 仕事の内容

人口減少社会にどう取り組むか

自治行政局行政課では地方行政の運営に関する基幹的な事項を定めている地方自治法を所管しています。地方自治の根幹に係る法律であるため、法令解釈などを通じて現実に地方行政の現場で起こる様々な問題に関与しています。また、今後の地方行政のあり方を検討し、法改正を含め対応をすることも大切な業務の一つです。

特に、今後、到来する急激な人口減少社会に対してどのように地方行政が対応していくのかを検討することが大きな課題です。平成60年には人口が1億人を切るという推計もあり、社会のあり方も大きく変容しようとしています。行政課では、この確実に到来する人口減少社会に対して地方行政がどのようにあるべきかを議論しています。地方自治体ごとにすべてが揃っているフルセットの行政からは転換すべきでないか、大都市の役割は今後どうあるべきか、など一つ一つの課題が難問であるため、解決に向けて課が一つとなり取り組んでいます。

■ 総務省について新規採用者へ伝えたいこと

地方の立場に立つということ

総務省では、若手職員に地方自治体への出向させ、地方公務員としての経験をさせる機会があります。私も2年間和歌山県でお世話になりました。見知らぬ土地に体一つで飛び込むことは、非常に不安ではありましたが、諸先輩方に支えられ、今では第2の故郷のように感じています。

また、総務省には都道府県などから出向されている方が多くいます。出向者それぞれの地方自治に対する熱い思いや出向元の現状などを聞くことは、とても良い刺激になります。

これらの環境や経験が総務省職員として最も必要である、「地方の立場に立つて考える」姿勢につながっていくのだと思います。他の府省には無い総務省の誇れる点です。

この冊子を手にも、進路を悩まれている方。熱意がある方はご自身の専攻などは気にせず、是非飛び込んでみてください。スケールの大きい仕事に対し、熱い思いをもった職員と一丸となり取り組み、解決していく達成感を是非味わってください。

■ PRIVATE TIME

週末は家族で過ごす時間に充てています。私にはまだ小さな子ども（写真撮影時1歳）がいるのですが、平日の帰宅時には既に寝てしまっていることが多いため、きちんと会えるのは週末ぐらいのものです。せめて週末だけでも、と近くの公園やちょっとした旅行などに積極的に繰り出し、父親として忘れられないように頑張っています。



とある一週間

■ MONDAY

通常国会への法案提出用の資料調製。間違いは許されません。

■ TUESDAY

国会からの資料要求。各担当者と協力してとりまとめます。

■ WEDNESDAY

国会での大臣への質問に対する資料作成。課内一丸となり取り組みます。

■ THURSDAY

都道府県からの地方自治法に関する質問について内容を確認し回答します。

■ FRIDAY

花の金曜日。早めに仕事を切り上げて職場の同僚と飲みに行きました。